

京都市洛西竹林公園

京都洛西竹林公園は 1981 年に、土地開発により減少した市内の竹林を保護する取り組みの一環として設立されました。公園の目標は、訪問者に竹の多様性や生態、そして地域の竹栽培の歴史について教育することです。広大な複合施設として、資料館や竹製品や土産物を扱うショップ、伝統的な茶室、約 110 種類の在来種および外来種の竹が植わる広々とした散策型庭園、そしてレクリエーションエリアを有しています。

竹の資料館

テキストパネルや写真の他に展示物として、竹の植物学的な情報や竹の栽培と収穫技術、建築や工芸における竹の素材や使われ方の紹介などがあります。注目の展示品は、米国の発明家トーマス・アルバ・エジソン（1847 年～1931 年）が京都の竹を使って開発・生産した竹ファイラメント電球の復元です。パネルの多くには英訳が付いています。

壁の一面には、建築用や装飾用に京都で生産された高品質の竹が展示されています。各品種の自然な竹の状態や特定の色・模様を出すために特別処理が施された竹、そして木枠を取り付けて四角形に成長させた竹など、それぞれを比較することができます。京銘竹は京都の伝統産業に指定されています。また、その反対側には外国の竹が展示されています。

受付の向かいには小さなショップがあり、お箸やコースター、茶筌、かご、おもちゃ、美術品、そして竹製のお土産品などを幅広く取り揃えています。

生態園

多くの散策路が設けられた広大な庭園には、約 110 種類の竹が植えられています。標識には、各品種の一般的な名称（日本語とローマ字）や学名、そして日本語での簡単な説明が記載されています。固有種か輸入かに関わらず、それぞれの種類の竹は地形や日当たり、そしてその他の環境要因を考慮して植えられています。

背の高い竹の木陰に囲まれた静かな小道は、自然との一体感を感じさせます。竹の種類によって竹林の密集度合いが変わり、山腹の随所から美しい景色が広がります。この庭園は京都の他の竹林に比べて人里離れた場所にあるため、写真撮影の場所として魅力的です。曲がりくねった小道は、その先にあるものが隠すので、周りの竹が無限に続いているかのような印象を与えます。

北東側の芝生の真ん中には、春に淡いピンク色の花を咲かせる枝垂桜があります。青々とした竹に対し桜の花が揺れる様子は、京都の春の代表的な風物詩といわれています。芝生にはベンチが設置されており、座って公園の雰囲気を楽しむことができます。

歴史的な遺物

歩道の1つは睡蓮の池にかかる百々橋に繋がっています。もともとは、現在の Upper Kyōto 区にあった木製の橋で、京都の大部分を荒廃させた応仁の乱（1467年～1477年）の激戦地となった場所と言われています。橋は石で造り直され、その後公園内の現在地に移築されました。

庭園の南東の隅には石仏等が多数並んでいます。中には、もともと墓標、供養塔、礎石、灯籠だったものもあります。しかし、1569年に室町幕府最後となる足利将軍、足利義昭（1537年～1597年）のために築城された旧二条城の城壁の建材として使われました。一部の石仏・石塔はほとんど無傷に見えるものもあれば、著しく損傷したり侵食されたりしているものもあります。

子どもの広場

庭園の南東には、竹林に囲まれたレクリエーションエリアである子どもの広場があります。広々とした芝生や丘にある滑り台などの遊び場、そして浅い池などがあります。スロープや多目的トイレ、そして座れる場所も十分にあり、家族で過ごすのに最適な場所です。